

葬儀場、3密防ぎ穏やかに

首都圏で対策進む

人が多く集まり長時間過ごす場面が多い葬儀場で、新型コロナウイルスの感染防止対策が進んでいる。3密（密閉、密集、密接）を防ぐため、故人との面会を予約制にしたり、会食を簡素にしたりするなど工夫を凝らす。故人と最後の時間を遺族や友人が穏やかに過ごせるよう「新しい生活様式」に沿った仕組み作りを急いでいる。

さいたま市内を中心に参列してもらい、友人など12の葬儀場を運営する福どには通夜の前に焼香で祀祭祭は、告別式参列者きる時間を設けた。担当の座席数を約半分に減ら者は「家族だけでなく、通常より広い会場最後のお別れをしたいとを留意し、席の間隔を1以上友人の気持ちにも余裕以上離して密集を防止添いたかった」と話す。通夜は家族を中心に安置室での故人との面会には予約制を導入した。1回30分で5人以内



座席の間隔を空けて密集を防ぎ（写真上）、検温や消毒も徹底（福祉葬祭のメモリアルホール西浦和）



故人との面会、予約制 火葬や拾骨、少人数で

コロナ危機 地方揺らぐ

とし、訪問時間が重ならないようにする。安置室は4畳半〜6畳程度と広くはない。大人数で訪れると3密になりやすいため。

東京博善（東京・千代田）も少人数の葬儀を推奨している。通夜や告別式に加え、火葬の立ち会いや拾骨も最小限の人数にするよう要請している。通夜をやめて告別式と火葬だけの1日で葬儀を終えることも勧められているという。

スが始めた。通常は親族などが行うことが多いが「多くの人と会話するた言が解除された5月末かめ感染リスクが高い（同らは、こうしたサービスク）。会計管理や香典帳をまとめ、「新生活様式のデータ作成も同社が代行することで感染不安を親族の負担を減らす。式場で流す故人の生前の映像も、会葬礼状にQRコードをつけてスマートフォンで見られるようになった。感染不安から香典を郵送して参列を見送ったり、参列者が香典をまとめて持参したりする

も弁当形式にしている」といっ。参列者に渡すマスクを用意したりする葬儀社もある。福祉葬祭では、懸念されている。インターネット上で「葬儀でのマスク着用はマナー違反ではない」などと、安心して故人との別明記して感染拡大防止を図ったり、着用してない備を進めている。